

平成 27 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	11473700399	事業の開始年月日	平成12年12月1日	
		指定年月日	平成26年12月1日	
法人名	社会福祉法人みやび会			
事業所名	グループホームやすらぎの郷			
所在地	(227-0054) 横浜市青葉区しらとり台3番地13			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	平成28年2月12日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の特徴としては、入居者の健康管理には十分な注意を払い支援をしている。特に看取りまでを視野にいたした対応を考え、医師や看護師そして家族との連携を図りつつ、穏やかな人生を全うしていただけるよう支援しております。又、維持透析が必要で且つ認知への対応も必要な方々にも案して生活して頂ける取り組みも行っております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-4 クゲヌマファースト 3階		
訪問調査日	平成28年3月23日	評価機関 評価決定日	平成28年7月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は東急田園都市線青葉台駅から徒歩8分、交通量の多い環状4号線から一歩奥の閑静な住宅街の中にあるグループホームです。近隣にはケアハウスやデイサービスなどの介護施設があります。また、事業所は県の身体拘束廃止推進事業のモデル事業所にもなっています。

<優れている点>

事業所では利用者に生きがい、喜び、安らぎのある生活を送ってもらうために利用者・家族と職員、職員間同士のコミュニケーションを重要視しています。利用者・家族とは日常的な会話から意向や要望を確認しています。家族には毎月、利用者の様子を伝える「日常生活の様子」を送付しています。ケアプランの作成時には利用者・家族からモニタリングを行っています。全職員が全利用者のモニタリングを行い、ケア会議で話し合い、利用者の喜びや安らぎを尊重し、ケアプランを作成しています。居室には馴染みのタンス、仏壇、家族写真などを持ち込み、居心地よく過ごせるようにしています。利用者との会話で馴染みの場所を把握し、その場所の写真を取り寄せ、居室に掲示しています。

<工夫点>

利用者の排便量を3分類12段階に分け、粘土で製作した模型を参考にして、排便量を全職員が同一基準で把握しています。職員は「週間排泄確認表」で利用者の排便量を把握し、「週間生活状況記録」で水分の摂取量を把握して、利用者の健康管理に繋がっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームやすらぎの郷
ユニット名	やすらぎの郷

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた実践については疑問も残る。若干新入職員もいるのでその辺りの確認も必要と思える。さらに、理念の具体的な支援内容や方法についても再度確認作業を行う必要もあると考えている。	3年前に職員参加で事業所独自の理念及び4項目からなる基本方針を定め、玄関に掲示し、必要に応じて会議で確認しています。日常のケアの実践に当たり「心に問いかけよう」という行動指針を作成して事務所に掲示し、理念の実践に勤めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での施設の存在は認識されていると思われる。16年目を迎えた今年もであるが、開所当時の方々も高齢を召されており、日々の中での関わりが薄くなってきている感はある。次世代の方々との交流を深めることを考えていく必要があると思う。	町内会に入会し、回覧版などで地域の情報を入手しています。地域のゴミの回収場の清掃に参加しています。毎月華道教室のボランティアを受入れ、居間や玄関などに作品を置いています。また、中学生とは、福祉体験で定期的な交流を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後は更なる地域連携の必要性を考え、地域で完結できる支援の一端を担う役割をはたして行きたいと思う。特に認知症高齢者具体的な相談・支援についてなど。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の運営状況等を踏まえた情報提供等も限りがあり、委員の方々との関係性からも特に意見等が多くあるわけでもない現実がある。	運営推進会議は、参加者の都合や会議自体のマナー化などで過去1年間会議の開催には至っていません。	運営推進会議を開催することで地域の人々や行政との連携・交流を深め、事業所の実情を理解してもらう機会になっています。早い時期での再開が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市との情報交換等はある程度できているものの、区との情報交換等はさほどでもない。ただし、生活保護受給の入居者の担当職員の方々とは定期的な情報は行われている。なお、現在は市より県との情報交換の方がより築かれている。	市の職員とは、介護認定更新時などの書類の提出時や、市の生活保護担当者が定期的に利用者の相談相手で来訪した時に、事業所の実態を把握してもらっています。また、市の要請による実習生の受け入れや情報提供を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束廃止に向けての支援については、職員は十分に理解していると思われる。身体・言葉・薬を含めた魔の三ロックの意味や拘束がもたらす認知症への弊害を含めた勉強会も適時実施している。	身体拘束に関しては行動規範の中に明記し、同時に定期的に勉強会を行い、周知を図っています。日中、玄関の施錠は必要に応じて行っています。また、県の「身体拘束廃止推進モデル事業」のモデル事業所になっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	介護職員としての職業倫理について理解を深め、併せて虐待防止の徹底と職員相互における牽制も行っていく。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修を通しての理解を深めている。内容的には成年後見、拘束、虐待等についてである。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容説明に基づいたコンセンサスを図っている。また、疑問等については十分に納得して頂けるように配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的なモニタリング、アセスメント等に併せて、意向や希望等を取っている。	利用者との会話、家族の来訪時、モニタリング、アセスメントに合わせて意向を聞いています。広報誌「日常生活の様子」を送るようになってから家族の来訪が増えています。家族から美容に関する要望が増え、対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議（全体）を等しての場で意見を拝聴し改善等に反映させている、また、個別面談の機会を通して個々の意見等の聞き取りも行い、施設運営に反映をさせている。	管理者は、毎月の全体会議、毎日のミーティング、職員の3ヶ月ごとの目標の振り返り、年4回の職員との個人面談などで職員の意見を引き出すようにしています。職員からの意見で勤務体制の変更や誕生会の内容などに反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	環境整備には努めるようにしている。個々に現状の認識や姿勢を含めた話し合いを行なっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的なカンファレンスや個々面談等を通しての理解度を図ったり、勉強会等を利用してのスキルアップも目指した取り組みも実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者自らは勤務状況等から中々交流等への参加も厳しいが、法人理事が県及び市との関係を持っていることから情報等の提供を頂いている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの聴き取り、家族からの要望を踏まえて介護計画のなかで反映していくように努めてはいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常にご家族との情報交換を行ないながら関係作りに努めている。また、ご家族の心理的状況にも配慮しながら、支援内容等についての話し合いも行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な事前情報収集をもとにアセスメントを行い、現状に即した支援内容を提示。また適時モニタリングも行いながら最善のサービスが提供できるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症ケアの本質であるパーソンセンタードケアを意識し、相互の関係性を大切に考えた取り組みを進めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人からみた家族の存在や家族からみた入居者の存などを理解することで、ホームを含めた良質な関係性が構築できるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状の入居者のADLやQOLを考えると難しくなっているの現実であり、今後の取り組みの中の課題とも考えている。	入居前のアセスメントで生活歴や趣味などを把握し、利用者・家族との話し合いで馴染みの人や場所を把握しています。家族の協力で馴染みの美容院や墓参りなどに行っています。また、利用者の馴染みの場所の写真を入手し、居室に飾っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に支え合える関係を大切考え、職員を含めた信頼関係の構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの中には定期的に情報をいただけることもあり、全てではないが交流を続けているケースもある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関係の中から入居者本人の今（内的理解）を知ることに心がけている。そのことで、本人の意向に沿った支援に結び付けている。	事業所では利用者とのコミュニケーションの構築に力を入れ、会話やそぶり、日々の行動で思いや意向を把握し、全体会議や朝のミーティングで共有しています。アセスメントは必要に応じて随時行っています。ケアへの反映は本人中心で行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談時に必要な情報収集は行っているが、生活保護受給者の方の中には十分な情報が入ってこないケースもあり、その点については毎日の生活の中でのコミュニケーションを通して聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を常に注視し、意識しながら現状の把握に努め、ケアに反映している。常に職員全員で個人の状態把握に努めながら穏やかな生活の継続に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画に基づく情報は職員各員より収集を行ない、これを基に今後の生活支援へと繋げて行っている。また、カンファレンス等を当して職員個々からの情報提供をしていただき支援に活かしている。	利用者や家族の意向を日頃の関わりの中で把握し、モニタリングは全職員が全利用者に対し4ヶ月ごとに実施し、毎月のケース会議で意見交換を行っています。ケアプランは原則4ヶ月ごとに作成し、作成したケアプランは家族に説明し同意を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア内容の定期的見直しは行っている。日々の記録については事実に基づいて内容を記載するよう指導するとともに、職員個々の振り返りを含めた記録も記載するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	対応は行われていると思う。関連施設に特養、老健、サ高住、HPなどがあり、状況に応じての対応は可能となっている。また医療が必要になった状態でも支援できる体制はある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状は活用しきれない現実がある。今後の課題とも考えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは常に情報交換を通しての協力関係が築かれているので問題はないと考える。24時間の対応を可能となっており、利用者様には安心して生活して頂ける思っている。	かかりつけ医は家族と利用者が決め、受診には職員が付添うこともあります。受診結果などの情報は共有されています。月2回往診に来所する協力医や訪問看護師などにより、24時間の医療支援体制が整っています。人工透析に通っている利用者もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護S Tとの関係は柔軟に行えているし、原則週1回の訪問を含めて関係も築かれており、支援に繋がっている。緊急時の対応もDrとの連携ができており必要なおうじて夜間対応もでき問題ないと考えられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院について医師と十分に打ち合わせを行い、その都度ご家族様にも報告をおこなっている。必要に応じては直接医師と家族との話し合いの場も提供している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的には看取り対応を実施する報告で支援を行っている。ADL及びQOLに応じた早い段階で家族を含めカンファレンスも行っている。	これまでに複数の看取りを経験しています。入居時には利用者・家族と「急変時事前承諾書」により対応を確認しています。利用者の状況変化により、利用者・家族および医療関係者と適時相談し、利用者にとって最適な方針を共有し、協働して支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生対応の手順等は一応統一されてはいるつもりである。横の連絡関係も周知されており、今までのケースにおいては特段問題となるような事態には発展していない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練等を通して常に危機感を持つよう努めると共に、近隣の方々との連携もお願いしている。また、グループ内の関連施設や医療機関からの応援体制確認されている。	年2回、うち1回は夜間を想定した避難訓練を利用者、職員および地域住民の参加で行っています。避難経路も2ヶ所を確保しています。火災報知器、火災自動通報装置および消火器も備えています。災害時用の食料などの備蓄物も確保しています。	スプリンクラーの早期設置が期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個々の権利や尊厳に配慮した関わりを行うよう職員間で共有はしている。また、個人情報の取り扱いについても気を付けるよう図っている。	職員には定期的に研修を行い、利用者の尊厳とプライバシーを守るよう徹底しています。利用者を「さん」付けで呼び、入浴時やトイレ介助時には、バスタオルやカーテンで隠して尊厳を守っています。メモ用紙も用が済めば直にシュレッダーにかけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の支援の基本的考え方の中で、自己決定、自己選択の機会を取り入れた働き掛けを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先支援ではなく、あくまで入居者中心の支援とひとり一人に即した個別ケアの実践にも心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容等には注意し、季節感や体調等を踏まえた支援の取る組を行なっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食の楽しみやひとり一人の咀嚼、嚥下状態に合わせた形態や、透析者への調理工夫も含めた支援を行っている。	業者が納入した食材を職員が交代で調理をして食事を提供しています。メニューはできるだけ利用者の要望にえています。利用者ごとの味付けや食事形態、人工透析食などにも対応しています。利用者は料理の下ごしらえや後片付けを手伝っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食形態の配慮、水分摂取量の確認などを常に意識した支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ムリのない範囲にて実施している。口腔ケアが食生活においても重要な役割を担っていることを職員が意識して支援している。また、歯科衛生士等の定期訪問に伴い情報交換も行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に基づき、無理のない範囲で入居者が安心して排泄できるように支援している。特に排便がスムーズ行なえるよう、水分の摂取状況を確認、調整し、自力排便へ行こうできるよう努めている。	利用者の自立排泄と自尊心を尊重した支援を実施しています。「週間排泄確認表」で排泄状況を確認してパターンを把握し、自尊心を尊重した声掛けでさりげなく誘導しています。排便量も3分類1 2段階の基準で確認し、健康管理を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師とも打ち合わせをしながら状況に応じた支援をしている。適切な排便誘導を促す対応として水分量の摂取状況を把握し、適量な水分の補給をしていただけるような配慮を行なっていく。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	無理のない範囲での入浴支援を実施している。基本的な入浴日は決めているが、常に状況に応じた対応を行なえるよう支援している。	利用者は週3回入浴しています。希望があれば追加で入浴したり、体調などによる入浴日の変更も柔軟に対応しています。柚子湯や菖蒲湯で季節を感じたり、入浴剤で色や香りを楽しむこともあります。入浴剤の使用で入浴拒否者が入浴することもあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安睡眠支援を優先に環境も含めた支援の取り組みを行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は職員が注意を払いながら行っている。誤薬、落薬確認など常に意識しながら支援に携わっている。薬の形状も（錠剤の粉末化）医師、薬剤師と相談の上、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理の無い範囲での提供を考えている。ただし、押し付け的な提供等は行わない事も共通のホームの目的として確認されている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々支援機会が少なくなってきたりしている現状がある。また、入居者自身も下肢低下も伴い長い距離を歩くことが難しくなっている。可能な範囲においてご家族を含め支援している。	利用者の下肢筋力の低下などで、外出は従来ほどできていませんが、交通量の少ない事業所の周囲を散歩したり、玄関先で日光浴をして、湯茶や菓子を楽しみ、花木を鑑賞しています。誕生日には利用者の希望で外食や買い物に出かけることもあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症に伴う記憶障害により、お金の管理にも問題があり、現状としては難しくなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現実的にはご本人が直接電話を通してご家族への意向等を伝えているケースは少ないと思われる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活環境については常々の課題と考えている。入居者にとっての快適な生活環境とは。ホーム全体としては広くない範囲での空間作りは難しさもあると考えている。	玄関にはドライフラワーや生花が飾られています。廊下は幅も広く、壁面には利用者が制作した切り紙などが掲示され、季節感のある吊り下げ飾りもあります。居間には利用者の好みのディズニーのキャラクターの絵も飾られています。清掃も行き届いています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ハード面での工夫には難しさがあるものの、個々では自身の思い出過ごしている時間は確保されていると思われる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	什器備品等は馴染みのある物を用意していただいているが、それが居心地とどのように関連しているかは疑問が生じる。認知症における記憶障害もあり全員とっていいほど、昼間はリビングでの生活が主になっており、居室は寝るだけの場所になっている現状。	利用者は家族と相談して、ベッドやタンスなど、馴染みの物品を持ち込んでいます。テレビ、カーペット、および仏壇を持ち込んでいる利用者もいます。思い出の田舎の写真を飾っている利用者もいます。居室は利用者と職員と一緒に清掃し、清潔を保っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に安全な環境づくりには配慮しているつもりである。居住空間も含めて安全で快適に生活していただけるように配慮しながら支援している。		